

日系研修員募集
実施協議調査団報告書

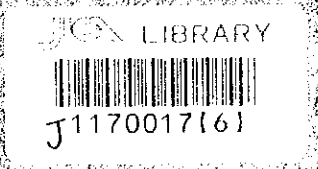
平成十四年三月

国際協力事業団

00
36
34

日系研修員募集 実施協議調査団報告書

平成十四年三月



国際協力事業団
海外移住センター

移住セ
JR
02-2



1170017[6]

目 次

はじめに

I. 調査団派遣の概要	頁
1. 背景と目的	1
2. 派遣国	1
3. 調査団構成	1
4. 調査期間	1
5. 調査日程	2
6. 面談者	4
II. 調査概要	
1. 調査団による説明	8
日系研修業務実施についての留意点	9
日系研修員受入実績	14
2. メキシコ事務所管内	
(1) 在メキシコ日本国大使館	21
(2) メキシコ事務所	21
(3) 中央学園活動現場視察	22
(4) 日本メキシコ学院	24
(5) 日墨協会	25
3. ドミニカ共和国事務所管内	
(1) 在ドミニカ（共）日本国大使館	28
(2) ドミニカ（共）事務所	28
(3) ドミニカ日系人協会・日ド友の会	29
(4) ドミニカ（共）日本語学校	30
(5) コンスタンサ移住地	33
4. ヴェネズエラ大使館管内	
(1) 在ヴェネズエラ日本国大使館	35

(2) ヴェネズエラ日本人会、カラカス日本人会	3 6
(3) 帰国日系研修員との面談	3 7
5. コロンビア事務所管内	
(1) 在コロンビア日本国大使館	4 0
(2) コロンビア事務所	4 0
(3) コロンビア日系人協会	4 0
(4) 帰国日系研修員との面談	4 3
(5) 帰国日本語学校生徒研修員一覧表	4 5
6. サンパウロ事務所管内	
(1) 在サンパウロ日本国総領事館	4 6
(2) サンパウロ事務所	4 6
(3) 日系人団体事務局長・同窓会関係者との意見交換会	4 7
(4) 日本語普及センターとの意見交換会	5 0
(5) 研究者帰国日系研修員活動現場視察	5 3
7. 調査結果のまとめ	
(1) 日系研修員制度実施に係る問題点及び所見	5 9
8. 付属資料：日本語普及センター	

はじめに

昭和46年に移住者等の支援を目的として始まった「移住研修員」制度は、その後の海外移住と日系人社会を取巻く環境の変化に合わせて、平成9年度日系人を通じた技術協力を目的とする「日系研修員」制度に衣替えされて、当センターが受入業務を主管することになりました。

因みに、新旧制度を通して受入れた、平成12年度末の累計人数は、2、668名に上ります。

本報告書は、日系研修員募集の実施状況を踏まえて、JICA事務所、在外公館、日系人団体等と協議、調整を行なうことを目的に、平成13年3月4日から3月20日の期間、メキシコ、ドミニカ共和国、ヴェネズエラ、コロンビア、ブラジル（サンパウロ）の5カ国に派遣された調査団の調査結果をまとめたものです。

本報告書が、日系研修員業務の円滑な実施のために参考となれば幸いです。

平成14年3月

国際協力事業団

海外移住センター

所長 清水武男

I. 調査団派遣の概要

1. 背景と目的

平成9年度の組織改編によって始まった日系研修制度では、海外移住センターが、募集選考、受入、所管計画の作成、研修実施を所管することとなり、平成13年度で5年目を迎えた。

これまで数度にわたり調査団を派遣して、関係機関や日系団体等に対して本事業の制度を説明し、かつ募集状況や日系社会への要望調査を行なった。

しかしながら、まだ調査されていない地域や都市が残っていること、また先の調査から一定期間が経過した国では、その後の状況等の変化があるため、今回それらの国や地域を対象に調査を行なうこととした。

したがって本調査団は、適正な募集と研修員受入を図ることと、募集環境や研修の要望ならびに帰国日系研修員同窓会について調査を行なう目的で、JICA事務所、在外公館、日系団体等に対して「日系研修員募集要項」および日系研修員受入に係る問題点について説明し、かつ必要事項に関し協議を行なった。

2. 派遣国

メキシコ、ドミニカ共和国、ヴェネズエラ、コロンビア、ブラジル

3. 調査団構成

(担 当 業 務)	(調査団員名)	(所 属 先)
総括・募集要項担当	金木 克公	海外移住センター研修課々長代理
要望調査担当	大庭 福治	外務省領事移住部政策課課長補佐

4. 調査期間

平成14年3月4日～平成14年3月20日（17日間）

5. 調査日程

月 日	曜 日	日 程	
3月4日	月	17:50	成田発 (JL012)
		17:45	メキシコシティ着
3月5日	火	10:00	領事館表敬
		11:00	JICA 事務所と打合せ
		16:00	中央学園活動現場視察
3月6日	水	9:30	日本メキシコ学院訪問
		11:30	日墨協会訪問・研修に関する打合せ
		16:00	日系帰国研修員との面談
		19:00	日系協会・帰国日系研修員と懇談
3月7日	木	9:05	メキシコ発 (MX1291)
		16:40	サントドミンゴ 着
3月8日	金	9:00	JICA事務所と打合せ (日程)
		10:00	大使館表敬
		11:00	JICA事務所と打合せ
		15:00	日系帰国研修員との面談
		19:00	帰国日系研修員と懇談会
3月9日	土	09:10	ドミニカ日系人協会への説明・意見交換
		11:00	日・ド友の会への説明・意見交換
		14:30	サントドミンゴ日本語学校訪問／運営委員会と打合せ
		16:30	帰国日系研修員と面談
3月10日	日	8:00	コンスタンサ移住地視察
		12:00	帰国日系研修員と面談
		13:00	調査団歓迎昼食会
3月11日	月	10:04	サントドミンゴ発 (AA680)
		17:41	カラカス着 (AA937)

月 日	曜 日	時程	日 程
3月12日	火	09:00 10:00 12:00 14:00	大使館訪問 日系団体と面談 日系団体・帰国研修員との懇談会 日系帰国研修員との面談
3月13日	水	12:40 13:30 15:30	カラカス発 (AV075) ボゴタ着 JICA 事務所安全ブリーフィング、打合せ
3月14日	木	10:00 11:00 15:00 19:00	日系帰国研修員との面談 日本語学校生徒帰国研修員との面談 大使館表敬 日系協会・帰国日系研修員と懇談
3月15日	金	10:00 14:00 21:25	日系帰国研修員との面談 JICA 事務所報告 ボゴタ発 (AV085)
3月16日	土	05:00 14:00 15:30 19:00	サンパウロ着 サンタクルス病院視察（帰国日系研修員と懇談） 研究者帰国研修員活動現場視察：赤間学園内 日系協会・帰国日系研修員と懇談
3月17日	日	10:00 14:00 15:00	日伯友好病院視察 憩いの園視察 特別養護老人ホーム「あけぼの」視察
3月18日	月	09:00 11:00 14:00 15:30 23:50	JICA 事務所と打合せ 領事館表敬 日系人団体事務局長及び日系研修員同窓会関係者 との意見交換会 日本語普及センター事務局長他と意見交換 サンパウロ発 (RG8836)
3月20日	水	13:35	成田着

6. 関係機関及び日系団体面談者リスト（敬称略）

1. メキシコ

（1）メキシコ J I C A 事務所

所長

河合 恒二

次長

佐々木 三郎

木村 靖

（2）在メキシコ日本領事館

領事

伯耆田 修

（3）（財）日本メキシコ学院

校 長

畑中 義治

事務総長

加藤 隆平

事務総長補佐

小見山 國俊

日本語教育部部長

府川 祐子

（4）（社）日墨協会

事務局長

牧 武

学務部長

石黒 良次

2. ドミニカ（共）

（1）ドミニカ（共）J I C A 事務所

所長

高橋 臣夫

次長

竹内 淳

矢島 厚武

（2）在ドミニカ（共）日本大使館

大使

野上 武久

領事

石川 輝行

(3) ドミニカ (共) 日系研修員同窓会

会長

有山 司郎

(4) ドミニカ日系人協会

副会長

瀬戸 秀明

(5) 日・ド友の会

副会長

肥後 克忠

(6) サントドミンゴ日本語学校

日系社会青年ボランティア

中村 恵子

(7) コンスタンサ移住地

会長

高田

帰国研修員

佐藤 康樹

同

佐藤 直美

同

西尾 蓉子

同

有山 康一

同

神前 和子

同

脇 輝亀

3. ヴェネズエラ

(1) 在ヴェネズエラ日本大使館

大使

伊藤 昌輝

領事・一等書記官

大野 政美

派遣員

浜田 満

(2) 日系団体

ヴェネズエラ日本人会 会長

伊藤 米太郎

カラカス日本人会 会長

竹内 浩之

4. コロンビア

(1) コロンビア J I C A 事務所

所長

小林 一三

次長

上條 直樹

池上 宇啓

八角調整員

村松職員

(2) 在コロンビア日本大使館

大使

鹿野 軍勝

二等書記官

西尾 利哉

(3) 日系人協会

会長

新地 学

5. サンパウロ

(1) サンパウロ J I C A 事務所

所長

小松 電玄

次長

松本 明宏

次長

岡部 近夫

佐々木 弘一

田村 陽一郎

村上 ヴィセンテ

寺尾 マルガリーダ

(2) 在サンパウロ総領事館

領事

中須 洋治

(3) サンタクルス病院

技術担当補佐

立花 敏市

看護部部長

平 知恵美

外来患者受付

岡 デーボラ・メリー

(4) 赤間学院

第一副理事長

赤間 アントニオ 晃平

(5) 日伯友好病院

院長	大久保 拓司
事務局次長	具志堅 茂信

(6) 憩いの園

第一副会長	左近 寿一
-------	-------

(7) 特別養護老人ホーム「あけぼの」

事務局長	竹村
日系社会青年ボランティア	牧野 妙美

(8) 日系団体

ブラジル日本文化協会事務局長	安立 仙一
同 上 JICA 委託委員長	高橋 伸雄
同 上 研修担当者	畑 俊男
サンパウロ日伯援護協会事務局長	山下 忠男
日本語普及センター事務局長	丹羽 義和
同 事務局員	西巻 クララ
同 事務局員	大泉 みどり
同 事務局員	前川 さおり
日伯文化連盟会長	上原 コウケイ
日系研究交流型会長	佐藤 直
日系研究者会長	立花 敏市
日系研究者選考委員会委員長	谷口 セリオ
日系研究交流型	渡辺 イイセイ
長野県留学 ASEBEX 会長	町田 エリザ

II. 調査概要

1. 調査団による説明

訪問5か国のJICA事務所、在外公館、日系団体等に対して、以下の説明を行なった。

(1) 日系研修業務で留意していただきたいこと（全5頁）

上記メモにもとづいて説明し、理解と協力をお願いした。

(2) 平成13年度日系研修員状況表（事務所別）（全3頁）

各事務所の応募と受入状況を説明した。

(3) 平成14年度日系研修員募集要項

『平成14年度日系研修員募集要項』と日・西・ポ語の3か国語で書かれた募集パンフレットをもとに説明した。

(4) 日系研修研修機関一覧

受入先を選定する際の参考に、過去受け入れた研修分野と研修先のリストを手渡した。（添付省略）

－ J I C A 事務所、日系団体等への説明－

“日系研修業務で留意していただきたいこと”

2002年3月1日

J I C A 海外移住センター

1. 日系研修を取巻く状況

平成14年度の受入人数は、前年度比で予算上30人減の見通しである。まず、そのことを含め日系研修制度を取巻く環境は、大変きびしいことを認識する必要がある。受入の減少がふたたび起きないように、また今後日系研修が適切に存続できるように、我々は、かかる状況をはっきりと認識した上で、業務を通じて日系研修の目的を明確にして、実施上の改善について積極的に考えを提示して行かなければならない。

その意味から、日系研修が「日系人を通じた技術協力」として実施されているかどうかを検討することが大事で、具体的には日系団体・社会における真の要請（ニーズ）が捉えられているか、またニーズが研修コースに反映しているか、さらに研修成果がどれだけ日系社会に役立っているかをチェックすることである。

日系研修が、最終的に日系社会の発展や活性化に貢献できるようにしたいが、その観点から、J I C A 事務所と日系団体においては、連携して種々検討して、意見をいただきたい。

2. 研修の見直し

日系研修制度は平成9年度に始まり、13年度は5年目の節目の年である。したがって、14年度から研修コースの見直しを図る時期を迎えるが、既存コース見直しについての意見と、新規コースの要望を知らせてほしい。それらを参考に、日系研修を発展的に展開してゆきたい。

そのほかに、現状で改善すべき点がある。たとえば、研修希望が大変個人的な興味や利益から出ていて、日系社会に還元するに至らないことが懸念される

場合や、特定家族から多く推薦されて来る印象を受ける場合がある。やむを得ない事情がない限り、推薦にあたっては、機会均等の公平さを確保するとともに、成果が伝播され得る形で研修が実現するように配慮願いたい。

3.日本語能力

研修は日本語で行なうのが、日系研修の根本であり、必要な日本語能力が受入れの条件である。日本の多くの専門学校では、外国人の入学条件を、国際交流基金の日本語能力検定2級以上としている。実際に授業を理解するには2級でも能力不足だが、来日後の勉強（主に自習）で向上が可能と見なされる。状況が似ている（個別）保母・幼児教育では、それに準じて2級を要求している。

そのほかのコースでは、3級を目安に受け入れる。理論上は、能力がもっと高ければさらに良い研修が望めるが、現実には、日系人で高度な日本語能力を持つ適格者が少ないことから、現状のように設定してある。

一方、3級に達しない者も受け入れている。その場合、来日後3ヶ月間日本語補完研修を受けさせる。日本語研修を通じて3級程度の能力を得て、技術研修に入る。こうした研修において、日本語能力から生じる問題はあまり起きていない。

例外的に、受入先の状況によっては、研修が外国語（英語等）で行なわれることがある。それが可能かどうかは、受入機関次第である。ただし、慣れない日本の生活を問題なく過ごすには、研修監理員が配置されないこともあって、短期研修員はともかく長期研修員は、日常会話程度の能力は必要である。

4.募集要項をよく読む

コース資格要件、締切り、受入通知時期等は、年毎に少しづつ変更されるので、応募者は応募の前に、対象年度の（＝最新の）『日系研修員募集要項』を読んでよく理解し、指示にしたがって書類を整えることと、推薦書以外の書類は、かならず本人が記入するように、指導してほしい。ほかの人による代書は決してさせないように願います。

5. 研修希望内容を明確に

すべての応募者は、応募書類のなかの「研修申請書」を、正確に書いてもらいたい。研究交流型と保母・幼児教育を除く個別研修の応募者は、この他に、JICAが研修受入先と研修内容をつめる際に大変重要な、「研修計画書」も必要なので提出させてほしい。

6. 研修意欲

JICA研修員のために特別に研修施設があるのではなく、研修は一般の仕事場である大学、病院、研究所などで、多忙な人々の協力で行なわれる。また、研修指導者も常にいるとは限らない。

そうした状況の中で大事なのは、研修員自身が研修意欲や向学心を強く持っていることである。経験上、意欲の薄い研修員の場合に、色々な問題が起きがちだと言える。

その意味から、推薦にあたっては、単に日本行きが目的だったり、研修に不熱心な者は除いて、やる気のある人物を推薦してほしい。

7. 研修先の内諾

個別研修コースは、応募者の希望にもとずいて研修機関を決めるので、応募書類に希望研修機関をはっきりと書くことが重要である。もし適当な機関を知らない時は、海外移住センター作成の『日系研修機関一覧』や募集要項に掲載のホーム・ページを参考にしてほしい。

さらに、研修機関から研修の内諾を取ることが、応募者にとり有利となる。なぜならば、内諾が与えられる前提として、どのような研修を受けたいのか、応募者自身がきちんと整理していて、その上で研修実施が可能であると判断されるからである。したがって、来日後のミスマッチを防ぐことができる。

逆に、内諾がない場合には、最終的に受入先が見つからないために受入不能になったり、受入れとなっても、希望と違う研修先で不満足な研修しかできない結果に陥りやすい。

8.日本語プレースメント・テスト

「日本語プレースメント・テスト」の得点数だけで即受入の可否が決まると考える向きがあるやに聞くが正しくない。本当の目的は、3ヶ月間の日本語補完研修を受ける必要があるかを判定することで、応募者がいたずらに心配しないでテストを受けるように指導願いたい。

なお、採点は海外移住センターが行なうので、手を加えず送ってほしい。

また、個別（個別）短期研修と研究交流型研修コース応募者には、プレースメント・テストはなく、数日間の日本語研修に参加させる際の参考に「日本語学習質問書」が必要なので、記入させてほしい。かりに研修が外国語の場合でも、受入先が日本語の程度を知りたがることが多く、同質問書は必要である。

9.研修辞退

別表の受入実績表のとおり、平成13年度、仮合格後の要請取下げが5件、受入通知後の来日中止がやはり5件—合計で10件の辞退があった。

いかなる段階の辞退であっても、研修機関に迷惑をかける結果となり、大変残念なことに、JICAとしての信頼を失うことさえある。

真にやむを得ない理由以外の辞退は防ぎたい。面接時に県費、国費などに二重申し込みをしていないか確認していただきたい。

10.仮合格通知の位置付け

個別研修では、仮合格通知がなされた後、研修先等が確定し受入決定通知が出て最終決定に至る。したがって、仮合格であっても、適当な研修機関が最後まで見つからない場合は、受入決定通知で受入不能になる可能性がある点に、留意いただきたい。

11.本邦研修実施機関との連絡

適切な研修計画や日程が組めるように、在外事務所は、本邦研修実施機関と

適宜必要な連絡を取ってほしい。

来日後の研修員が、「現地事務所で聞いたことと内容や状況が違う」、「日本語補完研修を受けてから技術研修だと言われたが、技術研修がすぐ始まった」、「研修先について情報が与えられなかった」、「来日直前に研修先が変わった」等々の苦情を言うことがある。

以上のことを防ぐために、研修実施センター等とコミュニケーションを取るようお願いします。

12. 来日前オリエンテーション

日系研修員に対する扱いは、現在一般技術研修員と同じであるが、特に、下記の点を、来日前の事務所でのオリエンテーションで徹底願いたい。

- * 研修計画、日程、研修場所（県、都市）等
- * 宿泊場所は、JICAセンターあるいはJICAが指定する宿舎である
- * 下宿は認めない
- * 家族同伴は不可
- * 滞在期間の延長は認めない
- * 研修終了後、JICAが指定する経路ですみやかに帰国する

以 上

平成13年度日系研修員状況表（事務所別）
（1）応募

JICA 海外移住センター
平成14年2月12日

研修種類		概 要		応 募 人 数 内 訳															
		定員	応募 人数	ブラジル	サンパウロ	ペレーン	ブラジル 計	アルゼンティン	パラグアイ	ボリビア	ペルー	ウルグアイ	コロンビア	ベネズエラ	メキシコ	チリ	ドミニカ	ブラジル 以外計	応募人数 合計
集 団		49	59	7	25	1	33	6	4	3	4	0	3	1	5	0	0	26	59
個 別	長期技術研修	51	81	5	38	3	46	6	3	9	9	0	1	1	4	0	2	35	81
	短期技術研修	56	55	3	30	1	34	7	1	3	5	4	0	0	0	1	0	21	55
合 計		156	195	15	93	5	113	19	8	15	18	4	4	2	9	1	2	82	195
		%		7.7	47.7	2.6	57.9	9.7	4.1	7.7	9.2	2.1	2.1	1.0	4.6	0.5	1.0	42.1	100

（2）受 入

研修種類		概 要					受 入 人 数 内 訳																
		定員	仮合格 通知	要請 取下	受入決 定通知	来日 中止	受入 人数	ブラジル	サンパウロ	ペレーン	ブラジル 計	アルゼンティン	パラグアイ	ボリビア	ペルー	ウルグアイ	コロンビア	ベネズエラ	メキシコ	チリ	ドミニカ	ブラジル 以外計	受入人数 合計
集 団		49		0	46	2	44	7	20	0	27	5	4	3	1	0	1	1	2	0	0	17	44
個 別	長期技術研修	51	53	2	51	2	49	3	23	1	27	4	3	5	5	0	1	1	2	0	1	22	49
	短期技術研修	56	51	3	46	1	45	1	26	1	28	4	1	3	5	3	0	0	0	1	0	17	45
合 計		156	104	5	143	5	138	11	69	2	82	13	8	11	11	3	2	2	4	1	1	56	138
		%					8.0	50.0	1.4	59.4	9.4	5.8	8.0	8.0	2.2	1.4	1.4	2.9	0.7	0.7	40.6	100	

平成13年度日系研修員
(1) 応募状況

JICA 海外移住センター
平成14年2月12日

研修種類	概要		事務所別人数													
	定員	応募人数	ブラジル	サンパウロ	ベレーン	ブラジル計	アルゼンティン	パラグアイ	ボリビア	ペルー	ウルグアイ	コロンビア	ヴェネズエラ	メキシコ	チリ	ドミニカ
集 団	49	59	7	25	1	33	6	4	3	4	0	3	1	5	0	0
(1) 日本語教師基礎Ⅰ	10	10	1	5		6		1	1	1		1				
(2) 日本語教師基礎Ⅱ	10	6	1	3		4	1		1							
(3) 日本語教師応用	20	21*	4	12		16	2	1	1					1		
(4) 日本語専修	4	15		3	1	4	1	1		3		2	1	3		
(5) 情報処理	5	7	1	2		3	2	1						1		
長期技術研修	51	81	5	38	3	46	6	3	9	9	0	1	1	4	0	2
(1) 医学分野	5	6	1	1		2			2	1		1				
(2) 歯学分野	5	11	1	5		6	1		3	1						
(3) 保母・幼児教育	3	3		3		3										
(4) 一般技術	28	49	3	19	2	24	5	3	4	6			1	4		2
(5) 研究者	10	12		10	1	11				1						
短期技術研修	56	55	3	30	1	34	7	1	3	5	4	0	0	0	1	0
(1) 医学分野	5	7		4		4			2	1						
(2) 歯学分野	5	6	1	3		4					1				1	
(3) 一般技術	26	24	1	6	1	8	7	1	1	4	3					
(4) 研究者	10	10		10		10										
(5) 研究交流型	10	8	1	7		8										
合 計	156	195	15	93	5	113	19	8	15	18	4	4	2	9	1	2
%			7.7	47.7	2.6	57.9	9.7	4.1	7.7	9.2	2.1	2.1	1.0	4.6	0.5	1.0

* 応用コースの応募者1名を基礎Ⅱコースで受け入れた。

(2) 受 入 数

研修種類	概 要		事 務 所 別 人 数													
	定 員	受入人数	ブラジル	カンパウ	ペレーン	アラシール	アルゼンティン	パラグアイ	ボリビア	ペルー	ウルグアイ	コロンビア	ベネズエラ	メキシコ	チリ	ドミニカ
集 団	49	44	7	20	0	27	5	4	3	1	0	1	1	2	0	0
(1) 日本語教師基礎Ⅰ	10	8	1	3		4		1	1	1		1				
(2) 日本語教師基礎Ⅱ	10	7	1	4		5	1		1							
(3) 日本語教師応用	20	20	4	11		15	2	1	1					1		
(4) 日本語専修	4	4		1		1		1					1	1		
(5) 情報処理	5	5	1	1		2	2	1								
長期技術研修	51	49	3	23	1	27	4	3	5	5	0	1	1	2	0	1
(1) 医学分野	5	4		1		1			1	1		1				
(2) 歯学分野	5	6	1	2		3	1		1	1						
(3) 保母・幼児教育	3	2		2		2										
(4) 一般技術	28	26	2	8	1	11	3	3	3	2			1	2		1
(5) 研究者	10	11		10		10				1						
短期技術研修	56	45	1	26	1	28	4	1	3	5	3	0	0	0	1	0
(1) 医学分野	5	6		3		3			2	1						
(2) 歯学分野	5	6	1	3		4					1				1	
(3) 一般技術	26	18		5	1	6	4	1	1	4	2					
(4) 研究者	10	8		8		8										
(5) 研究交流型	10	7		7		7										
合 計	156	138	11	69	2	82	13	8	11	11	3	2	2	4	1	1
%			8.0	50.0	1.4	59.4	9.4	5.8	8.0	8.0	2.2	1.4	1.4	2.9	0.7	0.7

平成13年度全研修コース表
A. 移住センター所管分

海外移住センター 研修課
2002.2.12現在

〈集団〉

No.	国	研修員番号	研修員氏名	コース番号	形態	研修コース名	来日	帰国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	状況	受入先
1	ボリビア他	D0150042	他 Ms. Gabriela Megumi KISHIMOTO 他 (計8名)	J0150001		日本語教師基礎1	2001.4.2	2001.9.28													帰国済	(財)海外日系人協会
2	アルゼンティン他	D0150026	他 Ms. Victor Francisco HIYAKAWA 他 (計5名)	J0150004		情報処理	2001.4.2	2001.11.23													帰国済	岩崎学園情報科学専門学校
3	アルゼンティン他	D0150118	他 Ms. Fujiko NAKAMORI 他 (計20名)	J0150003		日本語教師応用	2001.7.9	2001.10.5													帰国済	(財)海外日系人協会
4	アルゼンティン他	D0150117	他 Ms. Tokio YASUHARA 他 (計7名)	J0150002		日本語教師基礎2	2001.10.1	2002.3.29													来日済	(財)海外日系人協会

〈個別〉

No.	国	研修員番号	研修員氏名	コース番号	形態	研修コース名	来日	帰国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	状況	受入先
1	アルゼンティン	D0150031	Ms. Cristina Aki KATO	J0150029	長期・一般	ホテルサービス	2001.4.2	2002.3.29													来日済	(株)横浜グローバルインターコングレス
2	ヴェネズエラ	D0150001	Mr. Daniel Yuki NAKAJIMA HORIE	J0150010	長期・一般	ホテル経営学	2001.4.2	2002.3.29													来日済	(株)横浜グローバルインターコングレス
3	ウルグワイ	D0150128	Ms. Andra Lika HIRATA KONO	J0150099	短期・一般	和食調理	2001.9.3	2001.10.10													帰国済	(財)ベターホーム協会
4	パラグアイ	D0150004	Ms. Liliana Hatsue GODA MORI	J0150012	長期・一般	初等教育	2001.4.2	2002.3.29													来日済	玉川大学
5	ブラジル	D0150017	Ms. Alexandra Lumico OTSUKI	J0150018	長期・一般	ホテルサービス	2001.4.2	2002.3.29													来日済	(株)横浜グローバルインターコングレス
6		D0150061	Mr. Renato Noriaki ADACHI	J0150066	長期・一般	電気工学 (通信)	2001.4.2	2002.3.29													来日済	東海大学
7		D0150091	Ms. Suzana Celia Sanae WADA	J0150082	長期・研究者	建築物の構造に係わる研究	2001.4.9	2002.6.28													来日済	横浜国立大学
8		D0150094	Ms. Michelle SHIBAZAKI de ALMEIDA	J0150085	長期・研究者	食品流通における商品別パッケージ選定に係わる研究	2001.4.9	2002.6.28													来日済	横浜国立大学
9		D0150095	Ms. Daniela KAGIWARA	J0150086	長期・研究者	行政事業への共同参加に関わる可能性の研究	2001.4.9	2002.6.28													来日済	横浜国立大学
10		D0150156	Ms. Norma SHIBAZAKI DE ALMEIDA	J0150123	短期・研究者	都市構造システムにおける公共事業の管理に係る研究	2001.7.9	2001.10.7													帰国済	横浜国立大学
11		D0150021	Ms. Kyoko OTI	J0150021	短期・一般	モンテッソーリ教育法	2001.7.30	2001.9.5													帰国済	(財)海外日系人協会
12		D0150206	Mr. Hiroshi NOZAWA	J0150152	第三国専門家	農業一般	2001.10.29	2001.11.14													帰国済	(財)海外日系人協会
13		D0150134	Ms. Olga Aparecida MATSUI SHIMURA	J0150105	短期・一般	東洋医学 (マッサージ)	2002.1.7	2002.3.29													来日済	(財)海外日系人協会
14		D0150207	Mr. Heio Satoshi WATANABE	J0150153	第三国専門家	果樹栽培	2002.1.7	2002.1.23													帰国済	(財)海外日系人協会
15	ペルー	D0150167	Ms. Claudia Cediia INAMI YONEZAWA	J0150134	短期・一般	デザート等製菓技術	2001.7.9	2001.10.3													帰国済	ボナベティ
16	ボリビア	D0150039	Ms. Nozomi ISHIZAWA YOSHINAGA	J0150037	長期・留学	矯正技術	2001.4.2	2002.3.29													来日済	鶴見大学

〈2000年度継続分〉

No.	国	研修員番号	研修員氏名	コース番号	形態	研修コース名	来日	帰国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	状況	受入先
1	コロンビア	D0050094	Ms. Erika YABE	J0050087	長期・保母・幼児	保母・幼児教育	2000.4.3	2002.3.27													来日済	(財)海外日系人協会
2	パラグアイ	D0050042	Mr. Hugo Hitoshi SUZUKI MITSUI	J0050062	長期・一般	電子情報工学	2000.10.2	2001.9.28													帰国済	東海大学
3		D0050043	Mr. Yuji Samuel YOSHIZAKI	J0050063	長期・研究者	土木工学	2000.10.2	2001.9.28													帰国済	東海大学
4	ブラジル	D0050074	Ms. Claudemira Azevedo ITO	J0050071	長期・研究者	浜松市におけるブタの永住化に係る研究	2000.4.10	2001.6.29													帰国済	常葉学園大学
5		D0050077	Ms. Erica ENDO	J0050074	長期・研究者	経済圏で直しにおける日本の経営に係る研究	2000.4.10	2001.6.29													帰国済	横浜国立大学
6		D0050078	Ms. Fabiula Assuka KATO	J0050075	長期・研究者	クワトロによるコンピュータネットワーク・システムの研究	2000.4.10	2001.6.29													帰国済	横浜国立大学
7		D0050037	Mr. Mauricio Jun ARAI	J0050043	長期・一般	建築工学 (ビル建築工法)	2000.10.2	2001.9.28													帰国済	東海大学
8		D0050143	Ms. Myrian NUOMURA	J0050113	短期・研究者	健康促進の為に生活習慣に係る研究	2001.1.8	2001.4.13													帰国済	横浜国立大学
9		D0050197	Mr. Toshi-ichi TACHIBANA	J0050150	長期・研究者	造船流体力学に係る作用分析	2001.3.18	2001.4.18													帰国済	横浜国立大学
10		D0050198	Mr. Persio NAKAMOTO	J0050151	長期・研究者	障害児教育	2001.3.29	2001.7.1													帰国済	横浜国立大学

所管研修員数 新規 56名 継続 10名 合計 66名

B. 他センター・支部所管分

(集団)

No.	国	研修員番号	研修員氏名	コース番号	形態	研修コース名	来日	帰国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	状況	受入先	所管
1	ブラジル他	D0150121 他	Ms. Tatiane Mayumi MUROHASHI 他 (計4名)	J0150007		日本語専修	2001.4.9	2001.10.9													帰国済	(財)ひろしま国際センター	中国セ

(個別)

No.	国	研修員番号	研修員氏名	コース番号	形態	研修コース名	来日	帰国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	状況	受入先	所管
1	アメリカ	D0150029	Mr. Gabriel Antonio WAKITA ASNO	J0150027	長期・一般	鍼灸学	2001.4.2	2002.3.29													来日済	関西鍼灸短期大学	大阪セ
2		D0150024	Ms. Andrea Viviana KANESHIRO	J0150025	長期・歯学	新材料と新技術の研究	2001.4.9	2002.6.28													来日済	大阪大学大学院	大阪セ
3		D0150028	Mr. Ricardo Manuel FUJII	J0150026	長期・一般	環境工学 (産業排水処理)	2001.4.9	2002.6.28													来日済	富山大学	北陸支
4		D0150188	Ms. Yayoi SHIMA	J0150150	短期・一般	発酵食品加工	2001.7.9	2001.8.15													帰国済	長野食品(株)	筑波セ
5		D0150182	Ms. Mitsuko IWAI	J0150144	短期・一般	福祉事業コーディネーター	2001.12.17	2002.3.16													来日済	特別養護老人ホーム 柏原寿光園	大阪セ
6		D0150183	Ms. Isabel Maria IGARASHI	J0150145	短期・一般	老人介護技術	2001.12.17	2002.3.16													来日済	特別養護老人ホーム 柏原寿光園	大阪セ
7		D0150184	Mr. Rauli NAMIOKA	J0150146	短期・一般	花壇用花卉の苗栽培技術	2002.1.7	2002.3.16													来日済	農事組合法人花の生家舎組合	東京セ
8	ウルグアイ	D0150126	Ms. Rumiya IKEDA MORISHITA	J0150097	短期・一般	木造建築	2001.9.3	2001.11.30													帰国済	(財)オイスカ関西研修センター	大阪セ
9		D0150129	Mr. Mineo ONO ONO	J0150100	短期・歯学	補綴技術分野	2001.9.3	2001.11.30													帰国済	大阪大学歯学部	大阪セ
10	コロンビア	D0150105	Ms. Karen Yoshie SHUYAMA DELGADO	J0150093	長期・医学	母子保健医療システムに関する臨床疫学的方法	2001.4.9	2002.6.28													来日済	鹿児島大学	九州セ
11	チリ	D0150146	Ms. Berta Carolina MANQUEZ HATTA	J0150110	短期・歯学	歯学	2001.9.3	2001.12.22													帰国済	昭和大学歯科病院	東京セ
12	ドミニカ共	D0150023	Ms. Ineko HODAI HODAI	J0150024	長期・一般	稲作栽培技術一般、品質改良、害虫対策等	2001.4.9	2002.6.28													来日済	筑波大学	筑波セ
13	パラグアイ	D0150035	Ms. Hitomi HISAOKA MURAKUKI	J0150013	長期・一般	統計科学	2001.4.2	2002.3.29													来日済	大阪経済法科大学	大阪セ
14		D0150135	Ms. Yoko HIRAI	J0150106	短期・一般	給食センターの運営	2001.8.13	2001.10.22													帰国済	大内町立西町保育所	四国支
15		D0150003	Ms. Ruth TANAKA NAGAUFA	J0150011	長期・一般	栄養学	2001.10.1	2002.9.27													来日済	女子栄養大学	東京セ
16	ブラジル	D0150056	Ms. Rosy Yuri IMAI	J0150061	長期・一般	心理学	2001.4.2	2002.3.29													来日済	静岡県立大学	中部セ
17		D0150057	Ms. Silvia Mitie SHIKIBU	J0150062	長期・一般	観光学 (老人対象)	2001.4.2	2002.3.29													来日済	立教大学	東京セ
18		D0150059	Ms. Gaby Tiemi SUZUKI	J0150064	長期・一般	履分製工学	2001.4.2	2002.3.29													来日済	物質工学工機技術研究所	筑波セ
19		D0150062	Ms. Erina HONDA	J0150067	長期・一般	食品加工 (保存技術)	2001.4.2	2002.3.29													来日済	(株)ヤクルトマテリアル富士裾野工場	中部セ
20		D0150063	Ms. Tanja Miko UENO	J0150068	長期・一般	ワクチン合成・遺伝子治療	2001.4.2	2002.3.29													来日済	国立感染症研究所	東京セ
21		D0150064	Ms. Miyuki UNO	J0150069	長期・一般	臨床検査 (血液)	2001.4.2	2002.3.29													来日済	愛知県がんセンター研究所	中部セ
22		D0150066	Ms. Agnes Kanna YUBA	J0150071	長期・保母・幼児	保母・幼児教育	2001.4.2	2003.3.28													来日済	玉成保育専門学校	八王子セ
23		D0150069	Ms. Leiry YOSHI	J0150050	長期・保母・幼児	保母・幼児教育	2001.4.2	2003.3.28													来日済	高知学園短期大学	四国支
24		D0150079	Mr. Cleber Carnevali SATO	J0150060	長期・医学	婦人科医療	2001.4.2	2003.3.28													来日済	慶應義塾大学	東京セ
25		D0150083	Ms. Clara Yufu CHIBA	J0150074	長期・歯学	歯科矯正に係わる治療技術	2001.4.2	2002.3.29													来日済	岡山大学	中国セ
26		D0150088	Ms. Fabiola Mayumi MIYAUCHI	J0150079	長期・研究者	がんの腫瘍における組織構造に係わる研究	2001.4.2	2002.3.29													来日済	岡山大学	中国セ
27		D0150089	Mr. Harold Lhou HASEGAWA	J0150080	長期・研究者	機能性セラミックスに関する研究	2001.4.2	2002.3.29													来日済	(財)ファインセラミックスセンター試験所	中部セ
28		D0150092	Ms. Tieto MASSAGO	J0150083	長期・研究者	花卉の発芽と発根に係わる研究	2001.4.2	2002.3.29													来日済	北海道大学	札幌セ
29		D0150060	Mr. Marcelo Kiyoshige IIZUKA	J0150065	長期・一般	建築工学	2001.4.9	2002.6.28													来日済	北見工業大学	帯広セ
30		D0150082	Ms. Fabiana Emiko KANASHIRO	J0150073	長期・歯学	放射線治療中患者の口腔内粘膜炎症の治療	2001.4.9	2002.6.28													来日済	岡山大学	中国セ
31		D0150087	Mr. Marcelo NAKANISHI	J0150078	長期・研究者	鼻及び副鼻腔の先端外科的治療に係わる研究	2001.4.9	2002.6.28													来日済	東京慈恵会医科大学	東京セ
32		D0150090	Mr. Marcelo OTAKE SATO	J0150081	長期・研究者	昆虫の血清学、免疫学及び分子生物学	2001.4.9	2002.6.28													来日済	旭川医科大学	札幌セ
33		D0150093	Ms. Daniela Mayumi URA	J0150084	長期・研究者	エンドアメーバ属原生動物組織学における分子研究	2001.4.9	2002.6.28													来日済	慶應義塾大学	東京セ
34		D0150096	Mr. Andre Marçal KANASHIRO	J0150087	長期・研究者	産業廃棄物の再利用に係わる研究	2001.4.9	2002.6.28													来日済	鳥取大学	中国セ
35		D0150097	Ms. Claudia Ayumi NAKAI KOBAYASHI	J0150086	長期・歯学	歯学	2001.4.9	2002.6.28													来日済	昭和大学歯科病院	東京セ
36		D0150099	Ms. Monica Saori NAKAI KOBAYASHI	J0150090	長期・一般	情報処理	2001.4.9	2002.6.28													来日済	金沢工業大学	北陸支
37		D0150100	Ms. Meika IWATA MONTEIRO	J0150091	長期・一般	コンピュータグラフィックス (工業技術デザイン)	2001.4.10	2002.6.28													来日済	大阪市立大学	大阪セ
38		D0150136	Ms. Sheila Mayumi OKANO	J0150107	短期・歯学	歯科	2001.7.9	2001.10.6													帰国済	昭和大学歯学部	東京セ
39		D0150175	Ms. Yuriko KANASHIRO MATSUO	J0150140	研究交流型	産科看護及び助産師の比較研究	2001.7.9	2001.8.25													帰国済	大阪市立大学看護短期大学部	大阪セ
40		D0150138	Mr. Elio Hideo BABA	J0150109	研究交流型	遺伝子マッピング	2001.8.6	2001.11.2													帰国済	京都大学霊長類研究所	大阪セ
41		D0150155	Ms. Elisa Yoko HIROOKA	J0150122	短期・研究者	微生物毒素 (代謝物質) 分野に係る研究	2001.8.13	2001.11.19													帰国済	名城大学歯学部	中部セ
42		D0150160	Ms. Leira TUTIDA	J0150127	短期・研究者	動物繁殖に係るバイオテクノロジーの研究	2001.8.13	2001.11.30													帰国済	北海道大学獣医学部	札幌セ
43		D0150148	Ms. Nairi Maumi HAGUIARA	J0150115	短期・医学	患者の術前・術後のケア	2001.8.27	2001.12.15													帰国済	東京医科大学	東京セ
44		D0150149	Mr. Roberto Kaoru YAGI	J0150116	短期・医学	内視鏡による消化器疾患の診断	2001.8.27	2001.10.18													帰国済	東京医科大学	東京セ
45		D0150130	Ms. Tereza Hidemi HASSEGAWA	J0150101	短期・一般	看護学 (老人科)	2001.9.3	2001.12.1													帰国済	老人総合研究所	東京セ

〈個別〉

No.	国	研修員番号	研修員氏名	コース番号	形態	研修コース名	来日	帰国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	状況	受入先	所管
46	ブラジル	D0150154	Mr. Jarbas Yukio SHIMIZU	J0150121	短期・研究者	組織培養手法による構模構築に係る研究	2001.9.3	2001.12.1														森脇総合研究所	筑波セ
47		D0150157	Ms. Miriam UEMI	J0150124	短期・研究者	化学分析機器 (NMR) の分析結果の解析に係る研究	2001.9.3	2001.12.1														国立医薬品食品衛生研究所	東京セ
48		D0150169	Mr. Carlos Koji TAKAHASHI	J0150143	短期・一般	日本の中央及び地方行政構造	2001.9.3	2001.10.31														岩手県	東北支
49		D0150133	Ms. Saiko IZAWA YONEDA	J0150104	短期・一般	食品加工 (パン製造)	2001.9.26	2001.12.22														ル・コルドン・ブルー・パリ(株)	東京セ
50		D0150132	Ms. Quimie KAMIYAMA	J0150103	短期・一般	看護学 (小児科)	2001.10.1	2001.12.22														昭和大学病院	東京セ
51		D0150147	Ms. Marlene Maree AOKI ISHIZUKA	J0150114	短期・医学	整形外科と再建手術 (両足及び口蓋裂)	2001.10.1	2001.12.22														京都大学大学院医学研究科	大阪セ
52		D0150151	Ms. Emiko SAITO ARITA	J0150118	短期・医学	上肢関節筋の診断・治療に係る研究	2001.10.1	2001.11.3														岡山大学	中国セ
53		D0150152	Ms. Marly UKAI	J0150119	短期・医学	遠隔医療治療技術	2001.10.1	2001.12.22														岡山大学	中国セ
54		D0150153	Mr. Tomomi HARASHIMA	J0150120	短期・医学	歯のレーザー治療	2001.10.1	2001.12.22														昭和大学歯科病院	東京セ
55		D0150159	Ms. Cristina Mary KUABARA SOTOTUKA	J0150125	短期・研究者	特に米をベースとした健康食品に係る研究	2001.10.1	2001.12.22														女子栄養大学	東京セ
56		D0150162	Mr. Jorge TOMIOKA	J0150129	短期・研究者	電力システムにおける新素材及び先端技術の応用に係る研究	2001.10.1	2001.11.30														名古屋大学工学部	中部セ
57		D0150173	Ms. Elza Tiemi SAKAMOTO HOJO	J0150138	研究交流型	染色体の転位反応における中継点部位の性状解析方法	2001.10.8	2001.11.7														東京大学大学院	東京セ
58		D0150177	Mr. Tomoru SERA	J0150142	研究交流型	コーヒーへの組織培養への低レベル放射線による突然変異	2001.11.5	2001.12.8														農畜生物資源研究所	筑波セ
59		D0150172	Mr. Celso Kazuyuki MOROOKA	J0150137	研究交流型	石油フッ素及び海洋工学に係る研究	2002.1.7	2002.2.15														東京大学大学院	東京セ
60		D0150174	Mr. li-Sei WATABE	J0150139	研究交流型	電子顕微鏡を使用した高画質走査技術に係る研究	2002.1.7	2002.2.16														福岡大学医学部	九州セ
61		D0150171	Mr. Yashiro YAMAMOTO	J0150136	研究交流型	宇宙線に係る高エネルギーの研究	2002.1.20	2002.2.22														東京大学宇宙線研究所	東京セ
62		D0150161	Mr. Hello Toshiro SAKURAI	J0150128	短期・研究者	原油のグレード・アップと石油の廃棄物処理に係る研究	2002.2.13	2002.3.27														愛知産業大学	筑波セ
63	ペルー	D0150044	Mr. Carlos Alberto FUJIHARA FUJIMAKI	J0150041	長期・一般	製造システム (自動制御)	2001.4.9	2002.6.28														大阪大学大学院	大阪セ
64		D0150051	Ms. Elmy Carolina OMORI MITUMORI	J0150048	長期・医学	婦人科学	2001.4.9	2002.6.28														Bransmark Osseointegration Center	東京セ
65		D0150043	Ms. Patricia Yasuko HISHIKAWA MIGITA	J0150040	長期・一般	デジタルメディアデザイン	2001.4.11	2002.3.29														東京造形大学	八王子セ
66		D0150164	Mr. Emilio Ruben HIGA SAKIHARA	J0150131	短期・一般	日本語教育のためのコンピュータ技術	2001.7.9	2001.10.6														京都コンピュータ学園	大阪セ
67		D0150166	Ms. Elmy Sofia SHASHIKI YOSHIDA	J0150133	短期・一般	日本語教育のためのコンピュータ技術	2001.7.9	2001.10.6														京都コンピュータ学園	大阪セ
68		D0150050	Mr. Teruya Gibu ALBERTO ALEJANDRO	J0150047	長期・医学	内分泌疾患の診断・治療・技術	2001.8.13	2002.8.10														都立清瀬小児病院	八王子セ
69		D0150165	Mr. Alberto NAKASONE MATSUDA	J0150132	短期・一般	ランニング技術 (メトリックトレーニング)	2001.8.13	2001.11.25														堂ヶ島洋らんセンター	中部セ
70		D0150168	Mr. Luis Alberto VARGAS TOMINAGA	J0150135	短期・医学	不妊症と体外受精技術	2001.8.27	2001.12.15														東京ハートクリニック	東京セ
71		D0150049	Ms. Ysabel Cristina YOGA YANAGUI DE TNOCO	J0150046	長期・研究者	マイコトキシシン対処技術研究 (獣医学)	2001.12.3	2002.11.29														帯広畜産大学	帯広セ
72	ボリヴィア	D0150033	Mr. Ariel Koichi SHIGA NAKAMURA	J0150031	長期・一般	経営学	2001.4.2	2002.3.29														関西大学大学院	大阪セ
73		D0150034	Ms. Susana Masami TOMITA KOCHI	J0150032	長期・一般	建築計画・建築意匠	2001.4.2	2001.7.11														東京大学大学院	東京セ
74		D0150037	Mr. Hideaki YGEI TSUKAZAN	J0150035	長期・医学	腹腔鏡手術技術	2001.4.2	2003.3.28														東京大学	東京セ
75		D0150035	Mr. Gabriel Shinobu CHINEN TSUKAZEN	J0150033	長期・一般	コンピュータネットワーク	2001.4.9	2002.6.28														東京工科大学	東京セ
76		D0150203	Mr. Yoichiro HAYASHI TAJIMA	J0150151	短期・一般	養鶏飼養・衛生管理	2001.8.13	2001.11.18														後援野球場(株)	中部セ
77		D0150123	Ms. Yoko IKEDA NAKAMURA	J0150094	短期・医学	産婦人科	2001.8.27	2001.12.15														慶応義塾大学医学部	東京セ
78		D0150124	Mr. Teodoro Chikara UECHI IKEMURA	J0150095	短期・医学	内視鏡治療	2001.8.27	2001.12.15														慶応義塾大学医学部	東京セ
79	メキシコ	D0150011	Mr. Kazuo Miguel MURAKAMI OGASAWARA	J0150016	長期・一般	国際貿易・経営学	2001.4.2	2002.3.29														(財)太平洋人材交流センター	大阪セ
80		D0150009	Mr. Alberto Yoshiharu MORIYA NAGATOME	J0150014	長期・一般	経営学	2001.9.3	2002.7.31														関西大学大学院	大阪セ

2000年度継続分

〈個別〉

No.	国	研修員番号	研修員氏名	コース番号	形態	研修コース名	来日	帰国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	状況	受入先	所管	
1	アルゼンチン	D0050027	Mr. Ichiro SUZUKI	J0050033	長期・医学	放射線科	2000.4.3	2002.3.29													来日済	奈良県立医科大学	大阪セ	
2		D0050028	Ms. Noemi ARAKAKI	J0050034	長期・保育・幼児	保育・幼児教育	2000.4.3	2002.3.27													来日済	沖縄県立国際短期大学	沖縄セ	
3		D0050203	Mr. Yoza ARIHARA	J0050156	長期・一般	システムエンジニアリング	2001.3.29	2002.3.29														来日済	NTT西日本	大阪セ
4	コロンビア	D0050082	Ms. Kaori MURAMATSU GARCIA	J0050085	長期・一般	犯罪学	2000.4.10	2001.6.29														帰国済	東京大学	東京セ
5	ブラジル	D0050015	Mr. Minoru UCHIGASAKI	J0050021	長期・一般	政治学	2000.4.10	2001.6.29														帰国済	東京大学	東京セ
6		D0050016	Ms. Jane Toshimi MATSUI	J0050022	長期・一般	経営学	2000.4.10	2001.6.29														帰国済	(財)太平洋人材交流センター	大阪セ
7		D0050017	Ms. Kosue TOMITA	J0050023	長期・一般	コンピュータ・データベース・システム	2000.4.10	2001.6.29														帰国済	太陽学園	中部セ
8		D0050066	Mr. Marcio FUGINAMI GOTTO	J0050068	長期・医学	小児外科	2000.4.10	2002.3.27														来日済	慶応義塾大学	東京セ
9		D0050072	Ms. Lucy Sayuri ITO	J0050069	長期・研究者	癌予防の効果的計画策定を目的とした癌における	2000.4.10	2001.6.29														帰国済	愛知学院センター研究所	中部セ
10		D0050075	Ms. Cristiane Kimie ARITA	J0050072	長期・研究者	関節筋障害に係る研究	2000.4.10	2001.6.29														帰国済	岡山大学	中国セ
11		D0050079	Ms. Hitie Noeli SAITO	J0050076	長期・研究者	美術教育の基本方法論に係る研究	2000.4.10	2001.6.29														帰国済	東京学芸大学	東京セ

《個別》

No.	国	研修員番号	研修員氏名	コース番号	形態	研修コース名	来日	帰国	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	状況	受入先	所管
12	ブラジル	D0050081	Mr. Eduardo Kazuo KOHARA	J0050078	長期・歯学	小児歯科医学分野の歯と歯肉の病変予防技術	2000.4.10	2001.6.29													帰国済	昭和大学	東京セ
13		D0050194	Ms. Elizabeth Orika ONO	J0050147	短期・研究者	植物ホルモンの植物生理学的研究	2001.2.21	2001.4.21													帰国済	日本女子大学	東京セ
14		D0050195	Ms. Lucilla Cristina SATOMI	J0050148	長期・研究者	臨床微生物学	2001.3.29	2001.7.1													帰国済	東京医科歯科大学	東京セ
15		D0050196	Ms. Cristalina Yoshie YOSHIMURA	J0050149	短期・一般	海藻養殖	2001.3.29	2001.7.1													帰国済	高知大学海洋生物教育研究センター	四国支
18		D0050199	Mr. Ricardo Jun YAMAMOTO	J0050152	長期・一般	システムエンジニアリング	2001.3.29	2002.3.29													来日済	NTT西日本	大阪セ
19		D0050200	Ms. Luciana Sayuri ODA	J0050153	長期・一般	システムエンジニアリング	2001.3.29	2002.3.29													来日済	NTT西日本	大阪セ
16		D0050201	Mr. Edson NAKAMURA	J0050154	長期・一般	システムエンジニアリング	2001.3.29	2002.3.29													来日済	NTT西日本	大阪セ
17		D0050202	Mr. Leonardo MAEOKA	J0050155	長期・一般	システムエンジニアリング	2001.3.29	2002.3.29													来日済	NTT西日本	大阪セ
20	ペルー	D0050052	Mr. Yutaka Inti LEON SUEMATSU	J0050065	長期・一般	人工知能（神経回路等）	2000.4.10	2001.6.29													帰国済	京都大学大学院	大阪セ
21	ボリビア	D0050024	Ms. Seiko TONOSHIRO GOYA	J0050030	長期・保健・幼児	保育・幼児教育	2000.4.3	2002.3.27													来日済	沖縄キリスト教短期大学	沖縄セ
22		D0050020	Ms. Manami KINJO TOMORI	J0050026	長期・一般	商業建築設計	2000.10.2	2001.9.28													帰国済	(株)岡組	東京セ
23	メキシコ	D0050086	Mr. Adrian Koumei TODAKA LOEZA	J0050080	長期・一般	化学工業	2000.4.10	2001.6.29													帰国済	大阪市立工業研究所	大阪セ

センター・支部別所管人数

所管名	新規	継続	合計
札幌セ	3	0	3
帯広セ	2	0	2
東北支	1	0	1
筑波セ	6	0	6
東京セ	28	8	36
八王子セ	3	0	3
中部セ	8	2	10
北陸支	2	0	2
大阪セ	17	9	26
中国セ	10	1	11
四国支	2	1	3
九州セ	2	0	2
沖縄セ	0	2	2
計	84名	23名	107名

全センター受入研修員数

新規 140名*

継続 33名

合計 173名

*内2名は日系第三国専門家研修

メキシコ事務所管内

1. 在メキシコ日本国大使館

- ・日系人口は約17千人で5世の世代に入っている。
- ・言葉の面で日本語を理解できる日系人が少なくなっている。
- ・日本語教育のニーズは落ちていない。ただ、日本語教師になりたい日系人は余り聞いている。その理由として日本語教師は金にならない。こちらは理系が金になるので、手に技術を持つ者が多い。特に、医者、歯科医が圧倒的に多い。
- ・一方、メキシコ人の中では、日本語教育に対する関心と熱意が強く、日本語だけでなく、日本の文化についても強い関心を示している。
- ・今年は外務省の中堅指導者と日系団体指導者の短期研修員各1名を派遣した。
- ・日系研修員制度の利用については、応募の際の日本語要件を緩和しないと新規応募者の発掘に繋がらない。
- ・日系研修員制度は、日本政府の日系人支援策として重要であり、日墨協会等の関係団体とは引き続き密に交換をしていきたい。
- ・今後のニーズとして、医科系が圧倒的に多いので個別での対応をお願いする。

2. メキシコ事務所

- ・メキシコは今年で移住105周年を迎えるが、移住の変遷は自由移住者が多く、日系人が各地に散在しているため、まとまりは悪い。
- ・日系研修員制度において、一番問題なのは言葉、日本語を話せる日系人がいなくなった。募集要項を理解するには、日本語検定試験1級程度の能力を有するため、これをスペイン語で要約、もしくは全て読みかな振りすれば、さらに応募者は増える。
- ・日本語教師研修について、日本語教育のニーズは増えてきているが、既存のコースでは、研修期間や研修時期等について家庭の事情や代替教師の補充が困難な状況等もあって応募を断念せざるを得ないのが実情である。
- ・集団コースの枠内で個別（1か月コース）コースを設定するとか、または、個別短期で対応させる等、研修制度の見直しを希望する。
- ・個別研修に関しては、メキシコの場合、ニーズの高い医科系、電子コース、コンピュータ技術者等は多数存在するところ、応募書類等の日本語条件の緩和を図ることにより、研修参加のニーズは増加すると思われる。
- ・研修申請書等の応募書類をスペイン語併記又は英語併記とすることが望まれている。
- ・研修員同窓会の結成は急務と考えているので、早期に結成させる方向で準備中。

3. 中央学園活動現場視察

中央学園の概況：

日本語、日本文化を学ぼうとする子供達にそれを教授し、また、その家族にも日本についての理解を促し、将来のメキシコ・日本両国の架け橋となる人材を育成することを目標として1944年12月に本学園は創立された。

学級編成は幼稚園から高学年まで、週4回の授業を行っている。教員は帰国研修員の松原佳代が園長を勤め、教諭6名、事務員1名と管理人1名のスタッフで構成されている。さらに、JICAから派遣の日系社会シニア日本語教師が現地教師の日本語教授法等の助言・指導等の役割を努めている。

視察先帰国日系研修員：松原佳代（H13、日本語教師応用）

野原レイナ（H12、集団・長期一般技術／情報処理）

片桐小百合（H12、日系日本語学校生徒研修）

前田徳子（H7、日本語教師研修／12ヶ月コース）



写真左りから片桐小百合、松原佳代、野原レイナ

(1) 全般的な意見

中央学園の先生方は日本語教師の勉強をして来た方ではなく、メキシコでも研修はあるが、日本人対象的であり、日系人には難しく、日系研修で日本に行くのが一番効果的であり、研修の成果が大変役立っている。

野原研修員は8ヶ月研修で、日本語が伸び、コンピュータにも精通するようになった。研修に参加する前は、コンピュータ関係の資格等なく、1回目の応募は不合格であったが、2回目の応募で合格し、研修することができ、大変よかった。

研修に参加して帰国後、配属先を辞める研修員が多いと聞いているが、中央学

園では、研修に参加した先生方は全員学園に残っている。

(2) 帰国研修員

ア. 松原佳代

所感：昨年はレベルが高かった。3世なので漢字等不安であったが、努力すれば何とかなるものだった。研修は教授法ばかりでなく、広い分野をカバーしており、大変ためになった。特にコンピュータ講習・児童向け教授法のコースは素晴らしかった。メキシコでは、児童向け教授法が余りないため、ここですぐに役にたった。全体的に現地ですぐに役に立つ講習が多かった。所外研修は研修後半にして欲しい。また、新宿日本語学校に行けず、見学もできなかったのは残念だった。

募集・選考：中央学園は知っていたが、学園以外は知っている人が非常に少ない。現在は日墨協会機関誌に載せたりしているが、もっと広報した方が良い。

研修コース：日系人のみを対象とした研修と思っていたが、日本人が多くびっくりした。資格条件も厳守しなくてはいけないと思っていたが、国によっては、条件外の人が多くいた。研修生のレベルがバラバラであったので、レベル等統一したほうが良い。

イ. 前田徳子

所感：研修で日本に始めて行ったが、すごく良かった。日本語教育の勉強をしたことがなかったので、特に文法的なこと等は全然解らなかったが、すぐに問題なく丁寧に教えてくれた。日本文化等の講義も大変役に立った。

募集、選考、研修コース：松原さんと同じ。

ウ. 野原レイナ

所感：基本を勉強するためにはとても良い研修で多くのことを学べた。

研修では、その授業の前の課程を勉強していないと難しいものが多く、大変であった。研修の授業では、例えば、wordなどのプログラムの使用方法等、最後まで完全に教えてもらえなかった。計画が成熟されていない。

グラフィックデザイン、ネットワーク等グループの個人個人やりたいことが違うので、研修先は少しずつ全部教えてくれたため、希望の課目は完全でなかった。

募集、選考、研修コース：松原さんと同じ。

エ. 片桐小百合

所感：研修はとても良く、研修から帰って来たら日本語の先生になりたいと思うようになった。一緒に行った他国の研修生との友好関係は、先日バンクーバーまで会いに行く等深く結ばれている。

4. 日本メキシコ学院

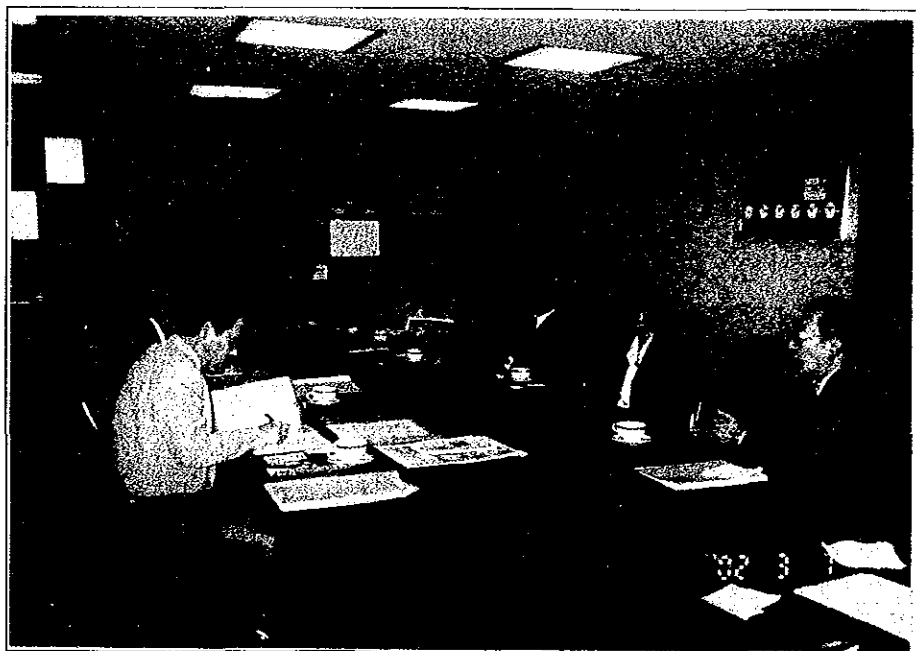
ア. 日本メキシコ学院の概況：1974年9月、メキシコを訪問された田中首相とエ
チェベリア大統領との会見の結果、共同声明において、「日本メキシコ学院の設立
は両国民の相互理解のために画期的な重要性を有するものであり、早期開設を支援
する」旨が発表された。同年9月20日メキシコ国法による「社団法人日本メキシ
コ学院」LICEO MEXICANO JAPONES, A.C を設立し、登記を完了した。

本学院は日本コース及びメキシココースの2つのコースと文化センターの3つの
セクションから成り立っている。

- 1) 日本コースは、小学部(132名)及び中学部(43名)をもち、日本文部省の教育課
程に準拠し、日本の義務教育課程を行うとともに、スペイン語及びメキシコ
理解学習を実践している。新学期は日本国内と同様で4月より始まる。
- 2) メキシココースは、小学部(441名)、中学部(190名)、高校部(127名)、幼稚部、
(110名)日本語教育部をもち、メキシコ教育省の教育課程に準拠し、高校部の
教科はメキシコ国立自治大学(U.N.A.M)の進学基準に準拠した教育を行うと
ともに、それぞれ日本語及び日本文化学習を実施している。メキシココースに
は、日系人子弟を含むメキシコ人子弟及び一部日本人子弟が在学している。

新学期は9月より始まる。

- 3) 文化センターは、両コースの中心に位置し、架け橋的役割を持つもので、国際
交流室、クラブ活動、編集・出版室の3部門をかかえ、両国文化交流の促進を
図っている。院内外の交流活動、異文化理解教育、各種研究会・交歓会、院内
外の一般成人向け文化講演会・講習会、日本への研修旅行、クラブ活動の指導
など広範囲な文化交流活動を実施している。



日本メキシコ学院関係者との意見交換会

(2) 訪問先帰国日系研修員：平井小百合 (H6、花卉栽培)

田内いずみ (H2、日本語 3ヶ月コース)

山村 幸 (H1、日本語 3ヶ月コース)

ア. 平井小百合

帰国後の進路：帰国後 JICA プロジェクト（農業技術センター）に5年間勤務した後、ボランティアで日本語文化センターで日本語を教えた。
当学院に日本語コース事務員として勤務。

イ. 田内いずみ

帰国後の進路：帰国後、当学院のメキシココースの日本語教師として常勤講師を勤める。

所感：江副方式の教授法や玉川大学のスクーリングも参考になった。ただし、限られた研修期間で茶道、リトニングなど必要ないと思われる。

応用コース3ヶ月は留守にすることができないので、個別短期（1ヶ月以内）が可能であれば、江副方式の教授法（漢字の部首）について再研修を希望する。具体的な研修課目は、小学校4年生から漢字学習が始まるので、コンピュータソフトで学習ができるように、漢字の構成が判れば難しい漢字も覚えるので、日検の合格者増にも貢献できると確信する。

当地では、日本語教師の給料が低いので日本語教師の成り手はいないことから、現員教師のブラッシュアップを図る意味からも短期間の再研修は是非とも必要と思われます。

ウ. 山村 幸

帰国後の進路：帰国後、当学院のメキシココースの日本語教師として時間講師を勤める。

所感：日本語教育の教授法能力を高めるためのブラッシュアップを図りたい。

年令も60才に近くベテランの域を達しているので、先生を教える研究交流型の研修があれば考慮してもいい。

5. 日墨協会 (ASOCIACION MEXICO JAPONESA)

日墨協会の概況：

1956年設立の日系人団体で、日系社会の中心的存在である。会員はメキシコ在住の日系人、進出企業商社員で、一部のメキシコ人家族にも加入を認めている。現在会員は約530家族、移住90周年（1982年）記念事業として完成した文化センター（会館）を有し、日墨親善、文化交流、会員相互の親睦、福利厚生事業を目的としている。1991年に日本語教育振興のため日本語教育センターを開設している。また、日本の国費留学生、県費留学生、JICAの日系研修員等の各種

留学・研修制度の募集実施機関として活動している。

なお、日系社会青年ボランティア斉藤菜奈子（15 回生：5 ヵ月任期延長）が団体事務で配属されている。

当協会の場合、役員の平均年齢が約 60 才で、ほとんどの方が 2 世を占めていることから、日本語を話せる理事がいないため、石黒良次氏が研修担当理事に選出させられ、日本政府関係者との橋渡しの役割を担っている。

現在、青年部が活発な動きを現しているのも、石黒担当理事と若者との交流を図りながら、帰国研修員同窓会結成の気運が盛り上がっているところである。



石黒担当理事と日系社会青年ボランティア斉藤菜奈子

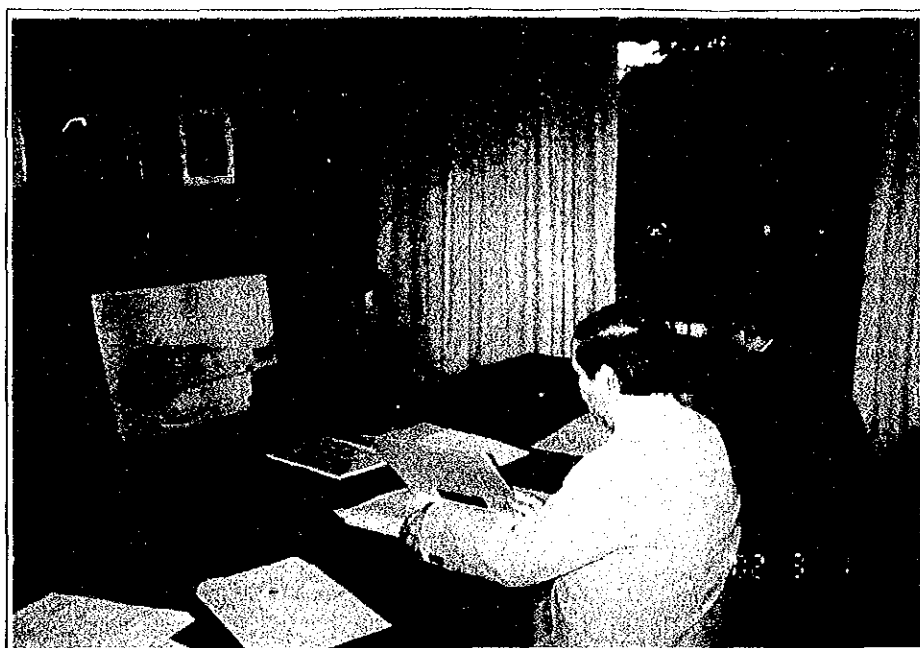
イ．訪問先帰国日系研修員：上田ゆり（H13、集団／日本語専修等）

渡辺広美（H11、個別・長期／一般技術・化学工業）

上田 ゆり

帰国後の進路：メキシコ国立自治大学の教師として勤務

所感：休職で研修に参加した。化学・物理学教育に非常に興味を持っていたので、日本語を習いたかった。また、母が日本人だから母国語の日本語に強い関心を持ち、小学生の時、日墨学院で日本語を勉強した。訪日経験は、今回が 4 度目、日本での研修先である広島国際センターでは、色々な国の研修員と交流が出来てとても良かった。研修科目の日本語専修について、日本語を習うことは知っていたが、具体的な内容については全く判らなかった。しかし、研修を修了し、漢字・聴解・作文・文法など 4 つの科目を習得でき、大変役に立っている。次は、化学教育専門科目で研修に行きたい。



日墨協会の会議室において上田 ゆりと面談

渡辺 広美

帰国後の進路：帰国後、民間企業で品質管理の仕事を勤める

所感：研修先の東京理科大学で質管理工学を学んだ研修の成果を活かし、帰国後、民間企業で品質管理の仕事を勤めることが出来、大変感謝しています。

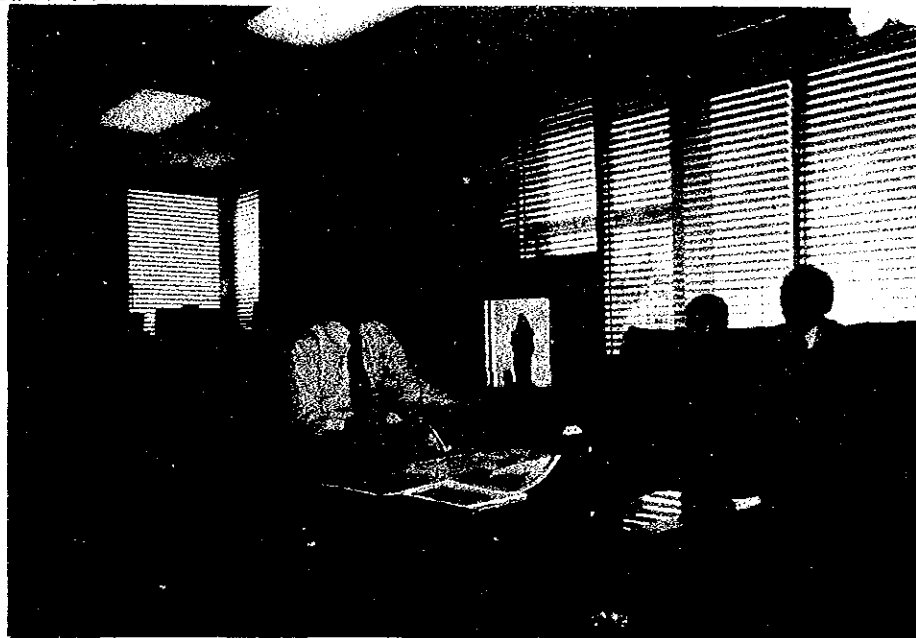


日墨協会の会議室において渡辺 広美と面談

ドミニカ共和国事務所管内

1. 在ドミニカ共和国日本国大使館

- ・ドミニカの日系人は、ふたつの日系団体が対立していることから、非日系人との結婚が多い。
- ・当地日系人団体の間には、複雑な問題が存在するが、将来の日系社会発展のために、そろそろ代替わりしたら良いと、常々年輩連中に言っている。新しい受け皿団体について趣旨さえ良ければ皆が納得してくれると思うので、若い世代のグループを育成させたい。
- ・日本語コースの数が減ってきているのは由々しきことですが、当地のニーズから日本語教育と高齢者対策の研修コースが重要である。
- ・中堅指導者短期研修等の外務省の人材育成の枠は小さいが、本制度は現地のニーズに答え得る制度になっている。これを大いに活用すべきで、積極的にPRするなど、もっとがんばらなくてはいけない。倍以上努力しなければいけない。
- ・今後のニーズとして、ホテル業の見通しは暗いも、これから観光客も増えてくることから、ホテル管理・観光案内業の研修に参加させたい。今、中途半端な人でこれで道が開ければ、かなりのインセンティブがあると思う。
- ・配偶者同伴が許されると応募者は増えると思う。



野上大使

2. ドミニカ共和国事務所

- ・日系研修員の募集広報について、日系2団体を通じて流しているが、問題なのは両団体に入っていない中間グループに対する広報の流し方について、個別で連絡するしかない。

- ・当地は邦字新聞もないのでPRが難しい。
- ・日本語能力試験２級以上の合格者が皆無に近いので、年中行事の中に「お話大会」とか日本語を話せる場を作っている。また、英語のレベルも低い。
- ・合否通知の判定時期を速めて欲しい。去年の例で言うと、本人は研修に行くつもりで会社も辞めて準備していたが、直前になって不合格の通知を受け、そのショックが大きかった。

3. ドミニカ日系人協会との意見交換

- ・嶽釜 徹会長は、前日日本へ出発したため、瀬藤 秀明副会長と大瀬良 勲事務局長が出席する予定であったが、大瀬良事務局長は直前になってキャンセル。
- ・瀬藤氏は、日本語が片言程度しか話せない、しかも右耳が難聴のため、スムーズに進行出来なかった。
- ・話しの流れから、全体的に調査団からの話を聞くのみで先方からの質問、本制度に対する関心度について、余り反応を示さなかった。

4. 日・ド友の会との意見交換

- ・西尾会長と肥後副会長が出席する予定であったが、西尾会長は直前になってキャンセル。
- ・ドミニカ政府から土地の提供を受けるため、本友の会が２年前に設立された。
- ・任意団体であるが、去年１１月に法人格取得の手続きを進めている。会員数は約１６０名。
- ・日系社会は小さい。１世でも５５才以上に達しており、２世以上の世代に入っているが、日本語能力は落ちている。比較的日本語は話せるが、読み書きは出来ない。読み書きできるのは１５名程度。
- ・研修員の募集方法について、全く会員に周知徹底されていない。本制度について半数以上は知られていないと思う。
- ・日本語での研修希望者は少ない。研修対象者は２世が中心となることから、日本語学校に通ったことのある人が日本語を使っていけないと何年か後に忘れかけてしまう。
- ・新規研修コースについて、この制度自体全くはじめて知ることなので、別途理事会等で検討の上、JICA事務所へ連絡したい。

5. ドミニカ共和国日本語学校・運営委員会活動現場視察

(1) 沿革の概況：

ドミニカ共和国への移住第1陣がハイチ国境近くのダハボン市郊外のコロニアに入植したのは1956年である。悪条件を克服しながら、やや落ち着いてきた翌年頃から、同行してきた子女に対する教育の必要性が叫ばれ、また、日本語と日本文化の継承の大切さを感じ、私塾のような形で日本語での教育が始められた。

1961年にトルヒーリョ大統領が暗殺されるという政変が起こり、日本語学校も閉鎖せざるを得ない状況になったのである。

帰国・他国転住など波乱万丈の変化の後、社会が安定化の傾向を辿り始めた。1970年代になって日本語学校再開の機運が高まり、日本語学校設立委員会が発足した。そして、1973年7月、ダハボン、ハラバコア、コンスタンサ、ラベীগに、また、同年9月、サントドミンゴに4年制の日本語学校が開校した。

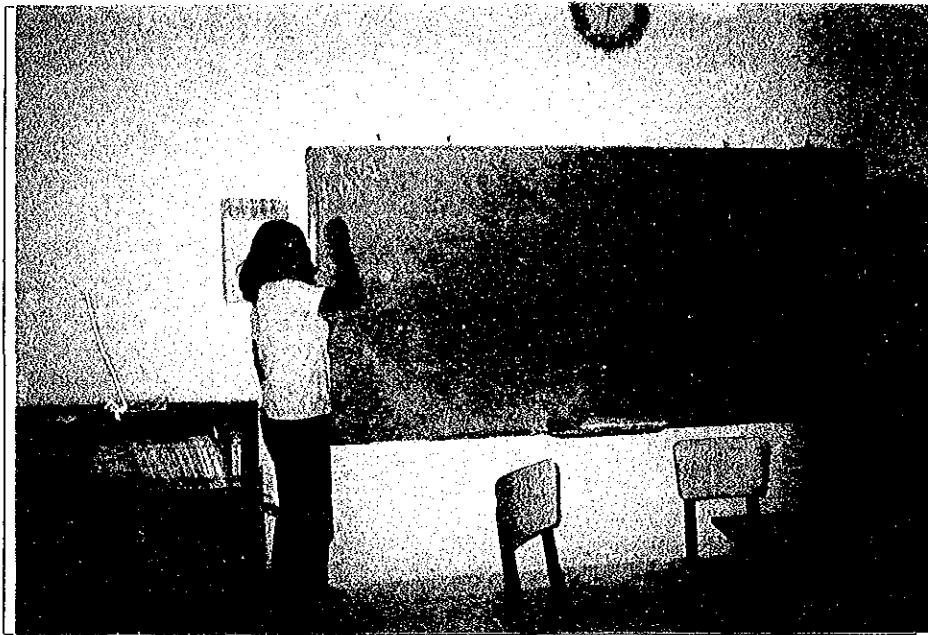
1977年、日本語学校の管理運営を日本人会連合会の管理下に入れ、「ドミニカ共和国日本語学校運営委員会」の統一組織になった。1978年、サントドミンゴ、ラベীগ、ハラバコアの3校が加入し、翌79年にコンスタンサ、85年にダハボンが加入した。その後、89年にサンティアゴ、90年にボナオ、95年に南部が加入し、現在に至っている。

(2) 課題・問題点

- ・財政難による低賃金のため、日本語教師の成り手がなく、教師の人材不足が露呈している。
- ・高齢化によりキャリアのある教師が少なく、若い人材が育たない。
- ・8校中4校が個人住宅やガレージなどを教室として併用利用しているため、教育環境施設の整備・改善が必要。

(3) 日本語学校訪問

- ・中村恵子日系社会青年ボランティアの案内により、低学年のクラスから高学年のクラスまでの授業風景を参観した。
- ・低学年のクラスでは、お話発表大会を控え、スピーチの練習をしていた。
- ・日本昔話のビデオで日本語を勉強中、6年生はピンゴを使っての日本語の勉強
- ・この日は土曜日の午後だったので、毎週土曜日の午後はゲームが中心とのこと、午前中の日本語クラスで生徒も頭を使い疲れがたまっているので、その気分転換として、午後は遊びを中心に楽しい日本語授業に取り組んでいる。
- ・本校の生徒は、小学校1年から6年まで全生徒数は約60名。



中村恵子日系社会青年ボランティア

- (4) 訪問先帰国日系研修員：山下 政久 (H4、中堅移住者技術向上／矯正歯科治療)
 上原邑子 (昭54、日本語教師3ヵ月コース)
 瀬藤弓子 (H9、集団・日本語教師基礎1コース)
 日高恵美子 (H7、移住者子弟上級コース)

ア. 山下 政久

帰国後の進路：サント・ドミンゴ市内で奥様と二人で歯科医を開業している。

所感：JICA研修員制度の前、私費で2年間東京医科歯科大学に留学した時は、臨床関係のみで患者を直接診断することは出来なかった。

JICAの研修でも実際に患者にふれることは出来なかったが、矯正の技術面が非常に役立っている。TIC宿泊中も友達がたくさん出来、日本滞在中は大変充実した生活が出来て大変満足している。特に、研修先の小野博司教授（現在は退官している）に大変お世話になりました。

次はインプラントの技術を研修したい。研修期間は最低でも3ヵ月は必要
 研修先について、東京医科歯科大学にはインプラントはやっていないので、ホームページ等で他の大学または研究機関等、受入先を発掘し応募したいと思います。合格すれば、すぐにでも店を閉めて日本に行きたいです。



山下 政久歯科医院内での面談

イ. 上原 邑子

帰国後の進路：本校の教師として25年勤続勤務。

所感：もう古い話になるので、特にコメントなし。

ウ. 瀬藤 弓子

帰国後の進路：帰国後、本校の教師として4年半勤務。

所感：日本語の基礎知識がある程度理解できたので、次の目標は基礎2コースをトライしたい。

エ. 日高 恵美子

帰国後の進路：帰国後、中央銀行でインターネットプログラムの仕事を勤める。

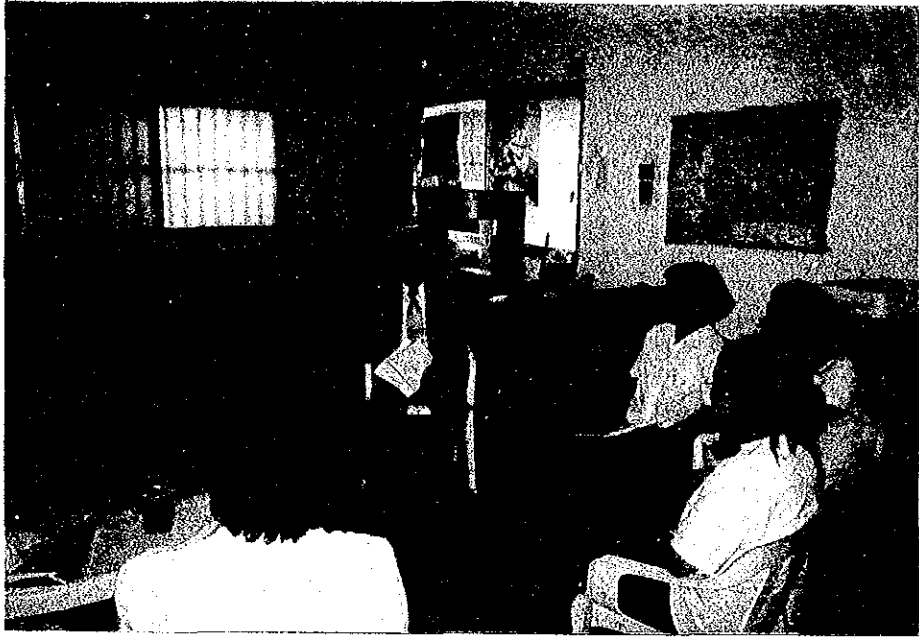
所感：サントドミンゴ技術大学卒業後、JICAの研修員で平塚の東海大学工学部を研修先として2年間、コンピュータネットワークの勉強をした。

最初は言葉の障害で苦勞したが、授業は問題なかったが、レポート作成が大変だった。

- ・大学学生寮から通学、友達もたくさん出来た。
- ・大学から研究者の修了証書をいただいた。
- ・大学の研修は2年が必要、1年では中途半端。

エ. 中村 恵子 日系社会青年ボランティア

- ・日本語教師基礎1コースの応募資格年令について、20才から18才に条件を引き下げることが出来ないか。高校を卒業してすぐに参加できるのは18才から、応募者のニーズに合わせるのも本制度の意義を深めると思う。



サントドミンゴ日本語学校の教員室において帰国日本語教師と面談

6. コンスタンサ移住地活動現場視察

沿革：1956年初めて日本人移住者35家族220名が入植したが、それ以前には、スペインからの移住者も入植している。当地はそ菜を充足するため設定したそ菜園芸移住地で、最初の土地配分が狭小のため転住者を募って土地を確保し、土地問題は解決したが、ハラバコア移住地がそ菜を作ることによって生産過剰となり、また連作による地力消耗ならびに投機的作付けによって行き詰まり、トルヒーリョ将軍暗殺後、前項5でも記述のごとく帰国ならびに南米転住者が続出した。

現況：市内中心地から70kmの距離に位置するコンスタンサ移住地は、この国の中央山脈内のコンスタンサ盆地にあり、標高1,300mの高原地帯で風光明媚の景勝の地である。年間平均気温が20℃前後で雨季（5月～10月）と乾季（11月～4月）にわかれ、年間平均雨量が1060mmの自然条件から蔬菜・果樹が主たる換金作物である。我々が訪問した時は、ちょうどニンニクの収穫時期に入っていた。乾季に当たり灌漑農業を行っているが、最近、水不足で悩んでいたところ、訪問時に久しぶりの大雨に見舞われ、農家はほっとしていた。

現在の定着戸数は12家族50名で、他に日本への就労者数が約20名。

訪問先帰国日系研修員：佐藤康樹（昭62、移住者子弟一般・果樹コース）

佐藤直美（昭62、移住者子弟一般・幼児コース）

（旧姓：砂田）

西尾蓉子（昭 59、日本語教師 3 カ月コース）
神前和子（昭 57、日本語教師 3 カ月コース）
有山康一（H14、日本語学校生徒研修来日予定）



コンスタンサ日本人会公民館において帰国研修員等と懇談

コンスタンサ移住地公民館において上記帰国研修員との意見交換会を実施した。

佐藤康樹・直美夫妻は、日本で研修中に愛が芽生え、帰国後ゴールイン、直美研修員をブラジルの桜高森植民地から呼び寄せ現在に至っている。

佐藤康樹氏はガソリンスタンド 2 店を経営し、農業（果樹・蔬菜等）も手広く行っており、当地では篤農家である。奥さんの直美さんはボランティアで日本語学校の教師を勤めている。

西尾蓉子（60 歳）研修員は、帰国後体調を崩し主婦専業。神前和子（56 歳）研修員も日本語教師をリタイアし主婦に専念している。移住地内の日本語学校には、現在、澤田光子現地教師と日系社会青年ボランティア福田文香日本語教師の二人が 11 名の生徒を相手に毎日 1 コマ（1 時間）の授業を受け持っている。